

科目名	発達心理学2			ナンバリング	PSY332	授業形態	講義
対象学年	1 年	開講時期	前期	科目分類	選択	単位数	2 単位
代表教員	林 洋一	担当教員					

授業の概要	この講義では、青年期以降の発達について概観する。青年期は「第二の誕生」の時期と言われ、社会性の発達や人格形成にとつてたいへん重要な時期である。したがって、児童期から青年期への移行、青年期から成人期への移行を含めて、青年期の心理学的研究の現状と課題等について概観する。だが、発達は決して青年期で終了するわけではない。成人期・老年期にも「発達」は認められおり、それぞれの時期に独自の意義や発達課題があるのである。成人期は、社会との関係が深くなると同時に、次の世代を養育する役割が生じる。老年期になると社会的役割こそ減少するが、その人の生涯をまとめる時期であり、人間らしく生き、そして死という最期の瞬間を迎える大切な時期である。講義と討論を通して、青年期・成人期・老年期という人生の各段階について、生涯発達の視点から考察する。						
到達目標	1. 青年期としての自己の心理的特徴を的確に把握し、その目標を設定できる。 2. 青年期における様々な対人関係(親子関係・きょうだい関係・友人関係・異性関係)の特徴を説明することができる。 3. 青年期に生じる不適応について理解し説明することができる。 4. 成人期の心理的特徴と発達課題について、理解し説明することができる。 5. 老年期の心理的特徴と発達課題について理解し説明することができる。 6. 青年としての適切な未来展望と将来の職業選択についての基本的な考えを整理し、まとめることができる。						
学習のアドバイス (勉強方法、履修に必要な 予備知識など)	受講者自身が青年であり、青年期としての特徴を持っている。そのため、授業で提示される青年像とかなりの共通性を持っていると思われるが、当然、それが当てはまらない場合もある。また、「自己評価」と「他者評価」のズレも存在するであろう。また、受講者の家族、ことに父母と祖父母の存在を意識しながら、成人期・老年期の発達を考えることが望まれる。						
ディプロマポリシーとの 関連	【教養学部 地域教養学科のディプロマポリシー】						
	○	1 専攻分野それぞれの基礎的な知識を確実に身につけ、それらを活用して基本的な問題を解決することができる。					
		2 専攻分野それぞれの基本的スキルを、地域社会に貢献するために活用することができる。					
	○	3 自分の意見や考えを説明し、他者と協調して積極的にコミュニケーションをとることができる。					
	○	4 広い視野と論理的・批判的思考力を身につけ、困難な課題や予測不能な事態に直面しても適切に対処することができる。					
	○	5 社会の一員としての自覚を持ち、社会生活の場において、地域を支える社会人・職業人としてふさわし関心・意欲・態度を示すことができる。					

標準的な到達レベル(合格ライン)の目安	理想的な到達レベルの目安
1. 青年期以降の発達に関する基本的な概念を理解し、説明することができる。また、青年期・成人期・老年期の一般的な心理的特徴を理解し、各時期の発達課題について説明することができる。 2. 青年期としての自己を、客観的に振り返ることができる。	1. 青年期以降の発達に関する基礎的な概念を理解し説明できるだけでなく、そのことが生涯発達の視点からどのような意味を持つかを適切に理解することができる。 2. 社会における青年・成人・高齢者の役割を理解し、社会の中の一員として自らを位置づけ、よりよい社会を作り出すためには何が必要かを自覚して行動できる。

成績評価観点 評価方法	知識・理解	思考・判断	関心・意欲	態度	技能・表現	その他	評価割合
定期試験(中間・期末試験)	○	○	○		○	○	70%
小テスト・授業内レポート	○	○	○	○	○		10%
宿題・授業外レポート	○	○	○	○	○		10%
授業態度・授業への参加		○		○	○		10%

課題、評価のフィードバック	課題レポートへの個別の講評と、授業時の全体へのフィードバックで行う。なお、課題提出はmanabaを利用する。
---------------	--

授業計画	回次	テーマ	授業内容	備考
	第1回	青年とは何か	青年とは何か、それが社会・文化・歴史によってどのように形成されてきたかを理解する。	
	第2回	青年の心理的特徴①	青年期の一般的な心理的特徴について理解し、説明できる。青年期の生涯発達における意義について考察する。	
	第3回	青年の心理的特徴②	青年期の一般的な心理的特徴について理解し、説明できる。特に青年後期の特徴について考察する。	
	第4回	青年の心理的特徴③	青年期の一般的な心理的特徴について理解し、説明できる。特に青年後期の特徴について考察する。	
	第5回	アイデンティティの形成①	青年心理学の最も重要な概念の一つである「アイデンティティ」の概要を理解する。	
	第6回	アイデンティティの形成②	自分自身のアイデンティティを客観的に測定する。また、その結果についての理解を深める。	
	第7回	青年の対人関係	青年期の対人関係、ことに親子関係・きょうだい関係についての認識を深める。	
	第8回	青年の不適応と精神病理	青年期の不適応を、主として学校不適応を中心として考察する。	
	第9回	成人期の心理的特徴と発達課題	成人期の一般的な心理的特徴と発達課題について考察する。	
	第10回	成人期の夫婦関係と親子関係	成人期の夫婦関係や親子関係に生じる諸問題について、発達の視点から考察する。	
	第11回	成人期の不適応と精神病理	成人期に起こりやすい会社不適応や精神病理的問題について考察する。	
	第12回	老年期の心理的特徴と発達課題	老年期の一般的な心理的特徴と発達課題について考察する。	
	第13回	老年期の夫婦関係と親子関係	老年期の夫婦関係や親子関係に生じる諸問題について、発達の視点から考察する。	
	第14回	老年期の不適応と精神病理	老年期に起こりやすい家族関係のトラブルや認知症について考察する。	
	第15回	まとめ	授業内容をまとめて整理する。	
	試験	試験を行う。		
授業の進め方		基本的には講義形式であるが、青年としての自分自身と深い関わり合いのある授業なので、受講者の意見・考えを尋ねたり、あるテーマについて討論することがある。		
授業外学習の指示		次回授業時の課題について事前レポートを求めたり、視聴したビデオ映像に対する感想の提出をmanaba上で求めることがある。 （授業外学習時間： 毎週 180 分）		

教科書	使用しない。資料を提示、配布する。
参考書	授業時に適宜紹介する。
参考URLなど	授業時に提示する。
その他	授業内容に関するビデオ映像を基に、講義を展開することがある。